

[第856回ゼミ報告] 2023年4月21号

「仲間内で人事を決めるは不公平だ」と政権与党の「長」が言う。仲間内で人事をしているは正に政権与党。学術の独自性・自主性を損なう発言だ！

4月12日のゼミは、柄谷行人『力と交換様式』第1部第2章「交換様式Bと力」を竹内さんの報告で行いました。ここでは、読み取るべき事項と疑問点を主に報告すると前提。国家での権力成立を歴史的・論理的な叙述への意欲的試み。交換様式Bの成立には交換様式Aを制圧しなければならない。国家をもたらす社会契約を要件として、軍事的征服ではなく、自発的隷従こそ国家を可能にする。国家をもたらす力は交換様式Bという経済的土台から生じる。そこでは上意下達の官僚機構が必要として国家が民族を創ったとまで主張する。交換様式から国家の導出という主張から初期国家はどのように成立したのか、古代的国家との違いは何か。国家の成立には他の共同体を従属させる支配的な共同体成立が必要。戦争での共同体間の力関係が国家を成立させる。リーダーの後継者が複数あれば後継争いが過熱し、支配装置そのものが崩壊へと向かうため、血族を後継とすることで勢力間の均衡を図って権力機構の崩壊を最小に留めている。交換様式を力説しながら、なぜか交換そのものを考察せず、交換と生産の関係も考慮しない。未開社会から安定的な国家への移行を論理だけで詰めるのは飛躍であるが、その移行を「霊」的とするのは説明を回避している。国家成立前に想定している平等性について、国家論に至らないにしても、未開社会の平等性について再検討が必要。報告者は前著『世界史の構造』(2010年)と対比して論を展開された。

討論では、国家の変遷を交換様式だけで説明できるのか。共同体の構成を明確にしていない。様々な論者の説を出すか、その評価は適切なのか、論者の説への解釈が異なっていることがある。氏族社会と部族社会との共同体としての関係が不明。支配機構・官僚制と戦争との関係はどうか。共同体内での力関係から血族関係が受け継いでいく。貢納の確実性には定住が必要、実りのある時に貢納するには場所が限られる。交換の内実を解かず、再分配される物は何か、書かず。貢納は再分配であり、最初に生産がある。「霊」とは何か、更なる説明が必要。

会場参加は小野さん・川口さん・松村さん・山口さん・高田、オンライン参加は斎藤さん・竹内さん・後藤さんの8名でした。

\* 4月26日(第4週)ゼミも、午後5時半(or 45分)から8時です。

・オンライン情報 Zoom: ID: 863 0810 6947 パスコード: 218895

\*\*\*\*\* ゼミ日程 \*\*\*\*\*

4月26日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

斎藤幸平『ゼロからの『資本論』』第2章 なぜ過労死は・・・ 報告・高田

5月10日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

柄谷行人『力と交換様式』第1部第3章 交換様式Cと力 報告・小野さん

5月24日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

斎藤幸平『ゼロからの『資本論』』第3章 イフベーション・・・ 報告者未定

その後 6/14, 6/28, 7/12, 7/26 [アイクルの部屋]

◇第三学科事務局/高田好章: ytakada@kcn.ne.jp 090-8658-3755

HomePage: <http://ysweb.g.dgdg.jp/ytakada/kisoken/> Pass: kiso